

第5回「市民ふれあいトーク」

—玉島地区の個性と魅力を伸ばすには—

要 約

日 時 平成21年4月27日(月) 18:00～19:30
場 所 玉島支所5階大会議室

《市長挨拶》

最初に少しだけ、私が日ごろ思っておりますことを申し上げてまして、お話を進めて参りたいと思っております。

今、倉敷市では大きく3つの柱に向かって市政を頑張って進めさせていただいています。大きな1つ目は、「子育てするなら倉敷でと言われるまち」。大きな2つ目が子どもさんから人生の先輩方まで「皆さんが安心して暮らせるまち」を目指していこう。大きな3つ目が「個性と魅力を伸ばすまち」ということで頑張っているところでございます。

なぜこの3つに今向かっているのかといいますと、ご存知のように、1つ目は、今、「少子高齢化社会」ということになっています。なかなか子どもさんの数も少ないということでありまして、これから人口が少なくなっていく社会で、いかに子どもさんが元気で倉敷市で活動していただけるか、子育てしやすいまちと思っていただけるか、若しくは若い夫婦の皆さんたちが、倉敷市の方に、岡山市よりも浅口よりも総社よりも、我々の市の方に住みたいと思ってもらえるか、そういうことが非常に大切だと思っています。その社会の変化に対して、「子育てするなら倉敷でと言われるまち」を一つ目にあげています。

2つ目でございますが、ご存知のように、玉島は大きな被害を受けました平成16年の台風災害。これから何とか今立ち直って、いろんなハード整備、地域での自主防災組織などを作ってきていただいているわけですが、子どもさんから人生の先輩方まで安心して暮らせる、そのためには、福祉のことだったり、防災の整備のことだったり、それから大きな目で見ますと環境問題。環境問題にしっかり取り組んでいかなければ我々の次の世代、次々の世代が元気でこの地に暮らしていくのはなかなか難しいのではないかと思います。それを2つ目として頑張っているところでございます。

3つ目が、「個性と魅力を伸ばすまち」。今日の大きなテーマでもございますけれども、倉敷市内の各地区、ほんとに素晴らしい力をもっていると思います。倉敷市自体もそうですが、他の市も頑張って、自分が持っている魅力を一生懸命発揮して観光客の人をこっちへ来てもらうようにしよう、または、今回の高速道路の1,000円化があったら、なんとか自分のインターチェンジのある所へ来てもらおうと努力をされています。個性と魅力があっても、それをもっと伸ばして出していかなければいけないのではと思っています。そのお知恵を皆さま方から頂きたいと思っています。

私が特に、この3つ目のことで思いますのは、この歌のまち、千人の歌声喫茶、作陽大学もあり音楽が非常に盛んなまち。そして何より、水谷候が作られ良寛さんが修業さ

第5回「市民ふれあいトーク」議事録（要約）

れましたこの玉島のまち、お茶の文化も非常に盛んでございます。そこは、倉敷市のどの地区よりも盛んであり発展していると思います。そういうところ、若しくは農業の分野、文化・観光の分野など、どういうところを皆さんが思っておられるのか、そういうことを、今日是非とも教えていただきたいと思っております。それを倉敷市の今進めて行こうと思っている色々な施策の中に反映をさせていきたい、参考にさせていただきたい、そういう思いで今日参っております。どうぞよろしく願いいたします。

《参加者》

私の息子は障がいがあるものですから、小学校入学のときに、就学通知が来ないのです。誰が決定するのか知りませんが、12月中に来るはずが、入学式の1週間前にやっと来たという経緯がありました。障がいのある者の親からすれば、入学通知がちゃんと来る制度にしていだければと思います。中学校入学のときも就学通知がなかなか来なくて心配をしました。

山の学習が終わったときに、教頭先生が「障がい者にとって良いところ、良いことは健常者にとっても良いということに気がつきました」とおっしゃってくれました。これは我々にとって随分勇気づけられる言葉でありまして、こういうことが実現すれば、障がい者にとって良いまち、良いところであれば健常者の方にとっても良いということを考えていただければと思います。

今日、ちょっと行って見たのですが、円通寺の白雲閣の左側を登って良寛荘に行くちょうど真ん中に公衆便所がありまして、そこに障害者トイレが設置されましたが、今日行ってみましたら鍵がかかっていました。そういうことも、障がい者と行政で常にコミュニケーションをとっていれば無くなるだろうと思っています。そういう点についてぜひ考慮いただければありがたく思います。

《市長》

今、教えていただいた中で、「障がいのある方にとって住みよいまちは健常者の人にとって住みよいまちである」ということが心に非常に響きました。これまでの施策の中で、今でこそユニバーサルデザインなどと言う言葉がありますが、実際に障がいのある方にとって住み良いまちにするためには、障がいのある方から見ていただいて色々な施策を行なわなければと思います。

例えば、今、おっしゃられた就学通知のこと、学校教育の中での支援、少しづつではありますが、支援員の先生方を増やして、障がいのある子どもさんたちが、もっと授業がわかりやすいように手助けができるように、ちょっとづつではありますけれども、頑張っているところでございます。

さっき教えていただいた円通寺の所のトイレのことなど、障がい者の方から見た観点でもしっかり見直しをしたいと思いますし、私がひとつ思いますのは、施設の見直しをしていくときに、障がいを抱える皆さんたちのご協力をいただいて、例えばまちづくりの見直しをしてみるというようなこともできればいいなあとと思っておりますので、頑張

第5回「市民ふれあいトーク」議事録（要約）

っていきたいと思います。

《参加者》

玉島は文人墨客も多ございまして、そして江戸中期の頃から廻船問屋の方たちが全国各地の方たちと交流もございまして、そして、豪商の方も大変多ございまして。その人達が大変忙しい合間を見つけましてお茶を嗜まれたと聞いております。その風習が、現在も今玉島の人たちに残されておると思います。

文化センターなどに茶室もございまして、間取りなんかも京間でございまして、なかなか使い勝手も悪く、多くの方からご不満を耳にいたしております。この度、文化交流センター建設の予定があると聞き及んでおりますので、今度交流センターができますにつきまして、もう少しちゃんとしたものを作っていたいただければと思います。

お茶はご承知のとおり日本の世界に誇れる伝統文化でございまして、人格形成の上にも大変私は必要と考えております。現在大変忙しい世の中でございまして、その中にひと時を見つけまして自分を見つめなおし、そして皆さまとの交流もしていけたらと思っております。この文化を若い人達も継承していただきまして、日本の良さをもっともっと認識していただけたらと常々感じておる次第でございまして。ですから今度作っていただきます施設につきましても、茶人の方達のよい意見を多少聞いていただきまして、先々残されて不平の出ないものを作っていたいただけたらと、切に要望いたしておるものでございます。

茶道は趣味だけではなくて人間の人格形成の上で必要なものと感じております。今、月釜をしますと100人前後でございまして。それにあわせて色々な施設ができましたら、お体の不自由な方たちの作品も展示していただいて、その日に皆さんが交流していただけたら、ますます、まちが活性化するのではないかと、私の個人の考えですが思っております。

ですから、そういう風に、お茶だけでなく広い範囲で皆さまとの交流の場ができるようなものにしていただき、もっと町の人たちとの交流を深めていけることができればいいと話しておる次第でございまして。どうぞ、よろしく願いいたします。

《市長》

今、玉島の文化センターに入りまして右のところにある茶室が、たぶん使い勝手が悪い、よろしくないということではないかと思っております。今もちろん計画段階でございまして、けれども、新しい「玉島市民交流センター」については、お茶のできる場所、茶室がございまして。茶室専用というわけにはいかないのですが、広く使えるように。

《参加者》

専用は無理でございまして、現在、お茶道具を置きますにしても、お茶の先生方が使い勝手が悪いという不平を多く耳にしております。同じ作っていただけるならその辺をお考えいただきまして、ちゃんとしたものを残していただきたいと思っております。

第5回「市民ふれあいトーク」議事録（要約）

ます。

《市長》

本当に玉島のお茶の文化はすばらしいと思います。先日の良寛茶会に来させていただきましたが、倉敷市内からだけではなく大勢の方が来られていました。ここにそれだけのお茶に関心を持った方が来られるということをもっと県外の方も含めて知ってもらいたいと思いますし、倉敷や水島、児島のほうの方にもぜひ玉島のお茶の文化をもっと知ってもらいたいと思うわけなんです。ですから、茶室はしっかり使い勝手のいいものにとっております。

《参加者》

ちょっと、長くなりますが、榮西茶会がございまして、これも岡山県の4大茶会のひとつでございまして、これが64回目でございます。玉島の良寛茶会が61回目でございます。ですから岡山県では2番目に古い大茶会でございます。良寛茶会も円通寺も手狭でございますので、現在は良寛荘を表さん、使っておられまして、それも全く不便な間取りでございますので、ご苦労なさっておられます。これだけ県外からも大勢ご出席いただいたりするので、もう少し玉島のまち、倉敷のまちをアピールできたらいいなと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

《市長》

ありがとうございます。お茶室のことで私が思いますのは、もちろん茶室は作っていく予定なのですが、大きなお茶会のときだけではなく、日ごろから使っていただけるかどうか、それが非常に心配といいますか。例えば若い学生さんが使ったりとか、若しくは町内の方とかですね……。

《参加者》

各流派の先生方とも相談して、若い方たちに、やっぱり日本の伝統芸術でありますお茶を、立ち居振る舞いも日本に独特の良さがございまして、そういうことを若い人達に学んでいただくように、色々計画していただけたらとお願いしようと思っております。遊ばしてはいけませんので。

《市長》

お茶のことでお話のある方いらっしゃいますか。

《参加者》

若い方にお茶をしてもらいたいということが、これから玉島も発展するんじゃないかと思えます。昔は玉島でお茶会があると150人位来られていました。そのとき思ったのは、ここで玉島の特産を売ればいいなあと思いました。それでいっしょに発展して

第5回「市民ふれあいトーク」議事録（要約）

いったらいいなと思います。それから、良寛さんの軸も読めたり。また、男性があまりお茶を知らないというのが・・・男性の方にもしっかり日本文化に目を向けていただきたいなと思います。そうしないと私たちばかりではなかなか前に進みませんので。

《市長》

男性の方、ぜひ興味を。私が玉島のお茶席に行ったときに、いつもお菓子が非常においしいと思うわけです。お茶とお菓子はセットで出てくるわけでございまして、お茶が盛んになればきっとお菓子も盛んになると思いますし、逆に、こういう良いお菓子があるとわかればお茶の方へ来ていただけたらと思うわけです。

《参加者》

お茶会でなくても、良寛荘なんかでお野菜とか、そういうものも販売なされば、玉島のPRになるのでは。よく来られた方がおっしゃってますので。

《参加者》

見本になるところが、やはり松江ですね。松平侯がおられたところ。松江が大変お茶の文化が盛んで参考になるのではと思いますので、市の方、市議会議員の方もそういうところに見学に行って学んでいただきたいと思っています。

《市長》

市議会議員さんに良くお伝えしておきます。ではお茶以外のことで。

《参加者》

長尾の方で、カーネーション・スターチス・スイトピーなど色々なものを作っています。今日のテーマが「玉島地区の個性魅力」ということですが、この地域で、農業の分野で言えば、富田の桃と船穂の花木、スカットが主たる2つの柱ではないかというふうには私は思っていますが、我が家にも施設園芸があります。ということはぶどうと同じように冬場は暖房しています。それが今年の油の高騰で、非常なダメージを受けました。中には経営が成り立たないで、やめようという方がボツボツいらっしやる、という状況です。ということは、この地域の2本柱である、桃と花木・スカット、その1本の柱がなくなる可能性があります。

そこで、提案というかお願いなのですが、そういう油に影響されない、地元からでる建設廃材とかチップ、そういうものを燃料とする暖房のシステムがボツボツ開発されておりまして、そういう施設を導入していく、そして化石燃料から施設園芸が脱皮するというモデルになるような地域にしていきたいなと思います。それを実現するために、「地域活性化生活対策臨時交付金」というものがあると聞いております。その交付金を農業の応援のために使っていただきたいというお願いです。私が聞いたところでは、2年前にその事業があって、名前が変わっているかもしれませんが。それが道路舗装に使

第5回「市民ふれあいトーク」議事録（要約）

われた。そういうことでなく、もうちょっと夢のあるものに使っていただきたい。具体的には、今日たまたま杉山農林部長さんにお会いする機会があったので、提案をさせていただきますので、ぜひこれが実現できるようによろしくお願いします。

《市長》

ありがとうございました。必ずこれができます、ということは今、なかなか言えることではないのですが、とにかく私の農林水産業に対する思いは、これからの社会、特に日本は食糧自給率が先進国の中でも低い、格段に低いですね。40%、岡山県はそれよりはもうちょっと高いと思いますが、非常に低い。これから中国なんか人口が増えてきたら、なかなか食べ物を輸出してくれなくなるだろうと思います。そしたら、自給がしっかり出来るようになっていかないと日本人は本当に困ると思うのです。なので、農林水産業にもっと力を入れたいと思っています。

《参加者》

同じ思いから農業に入りました！

《市長》

ありがとうございます。交付金をどういう農業の方に使えるかということをしっかり農林部長とも相談したいと思います。

《参加者》

わかりました。

《参加者》

各町、各地区には町内会という組織があります。しかし、現在倉敷市の場合は、例えば愛育委員とかそういう制度で会合することはありますが、現実には、町内会長に対する会合が全くないのです。地区を取りまとめているのは町内会なんですね。ところが、町内会に対しては、市の方からは広報紙しかありません。で、お尋ねしたいのは、そのようなことで、本当に市民の声が本当に吸収されているのかどうか。それで、倉敷市民が市政を理解しながら、連携プレーができるのかということに私は非常に不安を感じている。今後倉敷市の場合は、町内会というものをどの地位におかれるのか、例えばコミュニティ協議会に対しては、社会福祉協議会を通じて助成金が出ている。しかし、町内会は拠出するだけ。じゃ何が収入かという広報紙の配布だけです。これが現状です。そのようなことを今後市の方としてどうされるのかということをお教えいただきたいと思っています。

《市長》

非常に難しい問題だと思います、一言で申し上げますと。市が町内会を作るというわ

第5回「市民ふれあいトーク」議事録（要約）

けではもちろんありません。町内会は町内会でずっとこれまでの歴史があって作って活動をされていると思います。社会福祉協議会やコミュニティ協議会の方は、例えば社会福祉の法律に則って市の方からぜひ作っていただきたいということをお願いをしているわけでございます。町内会というものはもちろん大変大切なものと思いますが・・・

《市長》

町内会で集まってお話をされることがないんですね？

《参加者》

町内会としてはやっているんです。が、しかしそれ以外の拡大されたところの会というものが全くありません。コミュニティ協議会というものがありますけれども、そこでは大きなテーマについては、まだ何をするのか進捗されません。そういう現状です。

《市長》

町内会長さんたちが集まった一つの会がないということですね。たぶん地区によってちょっと違っているような気もするんです。例えば、水島の方ではある程度の区域で集まられて会合をされているというのを聞いたことがあります。地区によって違うのかもかもしれません。市の方で把握をしているのは、コミュニティ協議会単位で集まっていたというのはあると思うのですが。ただ、今日お話をいただいて、ここでなかなかお答えができないのですが、もっと町内会長さんたちが集まって例えばお互いの課題を出したりとか、若しくは市の方へこういうことを言おうとか、そういうものが、今のお話を聴いて出来ないものかと思いましたので、町内会の担当の方と話をしてみます。それぐらいしかお答えできなくて申し訳ありません。

《参加者》

ありがとうございます。よろしくお願いします。

《参加者》

今日の話聞いて玉島には沢山の魅力と個性があると励まされました。

この前ケーブルテレビで話されていましたが、まちづくり交付金を使われて先に児島に市民交流センターを作られる、その後で玉島も、というお話がありました。今出された質問の多くもそれに関連すると思うのですが。

2年後か3年後の計画だと思うのですが、そこに市民の方がもっと主役になって、市の方に、声を発信していける判り易い仕組みづくりを、ハードの建物を準備するとき、一緒に色々な地区からの声が集まり易い仕組みや、活発な団体もたくさんあるので、そういった魅力的な団体の方も、センターを活発に発信の場所として、みんなの情報交流の場所として作られるようにされて、官民一体となって玉島がもっとよくなるためのパワーアップをするような拠点作りをしていただけるといいなあと大変願っております。

第5回「市民ふれあいトーク」議事録（要約）

倉敷もそうですけど、玉島、ほんとにボランティア活動を熱心にされている方もたくさんいらっしゃるんで、そういったパワーをやはりこの個性と魅力におおいに加味していただいて、行政の方でこうしてくださいねという要望も大事なんですけど、私たちも考えて提案をし、それを実現するための枠組みを道筋として受け止めていただくといいなあとと思っています。

ちょうど24日に倉敷物語館がオープンしました。6月には市民活動推進センターがオープンします。ですから、コミュニティもいろんな目的をもった団体の方々も、市民が輝いてどんどん意見を出したり、アクション起こしていけるようになっていくことをぜひ、今後の視点に加えていただきたいと思います。

玉島はものづくりで非常に栄えたまちです。真田帽子や線香、プラスチック容器とか清酒、味噌、醤油。野菜や果物や花はもちろんです。すばらしい産業観光のプランが立てれるものがたくさんあります。そういうところを、他府県に出てしまっている地域の親子グループとか、地域の団体の人も改めて地元の魅力を知っていただくことが大事じゃないかと思っていますので、風光明媚でもあり、くらしき百景のたくさんの、本当に自分が思う景色もたくさんあるところで、地域活動に熱心な市民もたくさんおります。そういった玉島の魅力を大いに活かしていただいて、拠点づくりをしていただくと嬉しいなあとと思います。市民としてできることを一所懸命やらせていただこうと思います。

《市長》

ありがとうございました。今度新しく計画をしています玉島の市民交流センターはもちろん、名前からして市民交流センターですから、皆さんがいろんな情報交換をしていただきやすいような仕組みにしていきたいと思っています。

それから、今、言っていたで大変よかったのですが、先週の金曜日に、倉敷の美観地区の東大橋家、美観地区の入口のところの倉敷物語館ができたわけですが、ここはもちろん倉敷地区のことだけ発信するわけじゃなくて、倉敷市全体のことを発信をしていきたいと思っているんです。もちろん玉島のこと、児島のこと、情報発信はするんですが、私としては、ぜひ、玉島の皆さんが倉敷物語館に来て、例えば、今まで玉島の文化センターとか公民館で発表をしていたものを、やってもらったりできないだろうかというふうに思うんです。相互にですね。

その時にはたまたま、倉敷の公民館でいつも練習されている、例えばお謡いだったり・・・そういう方たちに来てもらって発表してもらおうということになったんですが、倉敷地区だけの発表するための施策じゃありませんので、例えば玉島の学生さんたちとか、玉島の公民館でいつも発表しているんだけど今度は倉敷物語館で発表するとか。一応茶室もございますので、お茶のお点前の発表をしていただいたり、例えば、月釜を倉敷の方で1回やっていただけないかと、そういうことがしていただけるとありがたいなあとと思います。

今度、公民館長さんたちの会議がありまして、そこで、ぜひ、倉敷地区以外の方たちにも倉敷物語館を何か使っていただけないかという呼びかけをお願いするようにしてい

第5回「市民ふれあいトーク」議事録（要約）

ますので、是非使って発信をしていただきたいと思います。

そうすれば、全国から来られた方が、ここへきたら必ず何かしている、若しくは玉島交流センターにきたら何かやってるぞと、そういう風になれば、もっと人が来てくださるんじゃないかと思うので、是非お願いをしたいと思います。ありがとうございます。

（参加者）

こちらに住んで物心がついて60数年になります。本当に玉島は素晴らしいところだと思いますが、玉島町、玉島市、倉敷市とすべてが間に合わせできた“まち”のように思えます。図書館にしても裁判所の跡とか、てんでに施設が分散しております。

今度の交流会館ができるのは、ほんとに楽しみなんですけど、今この時期は、世界的な不況で、税収が絶対に少なくなると思います。市長さんほんとに大変だと思いますが、また、間に合わせではなく、きっちりしたものを造っていただきたいと思います。

それから、円通寺はサライとかの本でも紹介されていましたが、円通寺に通じるアクセス。特に、玉島インターを降りたところ、作陽の方からあがるところが、草木に覆われた入り口なんです。えっ、これがインターチェンジに入るところ？って感じで、是非、市長から国へお願いしていただきたいと思います。私たちがボランティアで、草を刈りに行けばいいのですが、私どもではどうにもならないと思います。

また、新倉敷駅前の花や草、バイパスの下に草が多い。青年会議所の方が綺麗なお花を植えられたのですが、今はもう雑草まみれになっていて、そういうこともお手伝いできたらと思うのですが、なかなか私たちも実行できなくて。

新倉敷駅前、目にとまる場所ですので、綺麗な玉島であってほしいと思います。

円通寺をもっともっとみなさんに知ってもらいたいと思いますので、アクセスをわかりやすくしていただければ、円通寺が生きてくると思います。円通寺の良寛さんは世界に発信しておりますよね。是非、玉島を盛り上げていただける良寛さんですからよろしくお願いいたします。

（市長）

今、おっしゃられたインターの入り口は、前にガソリンスタンドがあるところですね。

確かに、三角のようになってどっちが入り口かわかりにくいようなところですね。見てから、国の方に言います。

それから、花を植えることにつきましては、予算の関係もあって一度に植えられるかわからないのですが、例えば、ご協力いただける皆さんに種を配って、それを育てていただいて置いていただくなど、そういうことも含めて、いい駅前にはできないかしらと思います。ハートランド倉敷のときなんか、例えば公民館であったり、冬、種をお渡ししておいて、育てていただいてから、それをお客さんがくる前に並べていただいたりしています。市で全部できないかもしれないのですが、綺麗なまちという風にしたしたいと思います。

円通寺は世界から人を呼べる場所だと思いますので、良寛さんの研究は世界の中でも進んでいると伺っていますので、もっと、外国人の方に来てもらいやすいように、ア

第5回「市民ふれあいトーク」議事録（要約）

クセス、広報活動とか、そういう点をしっかりしていきたいと思います。

それから、交流センターについては、お金はもちろん苦しいですが、しっかりしたものを造っていきたいと思っています。これまでみたいに、建て増し建て増しにならないように、しっかりやりたいと思います

（参加者）

乙島のE地区に、2.7～2.8haくらいコスモスを植えています。今から10年くらい前ですが、そのコスモスを植えたときに写真展をやったんですが、今は止めています。また、そういうことを始めたら市長さん、力をいただけますか。市長賞をご本人から渡してもらえますでしょうか。（市長：大丈夫です）

それと、少し予算をつけていただかないといけないのですが。

皆さんにお願いがあります。NPO法人備中玉島観光ガイド協会で、備中綿の種を配り花を咲かそうとしています。歴史民族海洋資料館の原田館長のところで種がもらえる。昔、塩害にかからない綿を植えていたものを復活できたらと思っています。5月が植え時ですので、よろしくをお願いします。

（市長）

NPO法人でもご活躍いただきありがとうございます。

昨年、玉島地区の名所や歴史が書いてあるパンフレットがなかなか無かったので、それをまとめましたが、そういうことをこれからしっかりやっていく必要があると思っています。

（参加者）

沙美に住んでいますが、駅に行くまでのバスが少ないです。

バス会社に言えいい話かもしれないのですが、1～2時間に1本あるかないかであり、すごく不便です。大学生のときに東京にいましたが、府中では市バスが走っていました。100円ほどで市内の路線を乗り放題であり、そういう小さなバスがいっぱい走っています。そういう市バスのようなものがあれば便利だなと思っています。

円通寺に行くときも、円通寺行きのバスがなかなか無いです。円通寺という観光名所があるのだから、そこを巡回するようなバスのようなものがあったら便利ではないかと思っています。

二つ目に、サインですが、3月に玉島の民家にあるお雛さまを一杯展示する雛めぐりがあったのですが、中央町から雛めぐりの会場までの目印が出ていませんでした。展示しているのは、古い町並みを保存している場所なので、例えば、町並み保存のエリアという名称の看板などがあればわかりやすいのではないかと思います。

そういうサインなどを充実させれば、訪ねてきた人たちにわかりやすく、歩きやすいまちになるのではないかと思います。

（市長）

町並み保存ですが、おっしゃるとおりだと思います。まだまだ、サインもわかりにくいし、特に、観光に初めて来られる方に対してのサインができてないと思います。

どこに置けばいいのかということろまではまだ、検討は進んでないのですが、しっか

第5回「市民ふれあいトーク」議事録（要約）

り進めていくようにしたいと思います。おっしゃっていただいたように、円通寺はある程度ご存知かもしれませんが、この辺に行けば町並み保存地区があるとかですね、そういうものを出すだけでも違うと思いますし、その辺りに来てくれれば商店街を歩いてくれたりしてくれると思いますので頑張りたいと思います。

それから、バスの問題は難しいですね。市全域で、バスが減ってきています。

それは、なぜかというに乗る方が少ないので、バス会社も路線を縮小しているわけなんです。市からバス会社の方に補助金を出したりしてお願いをして、何とか縮小をしないようにしてもらっているのですが、それでもかなり限界になっているのが現状なんです。

でも、地域の方たちの足として何かできないかというのは、それは紗美とかだけではなくて、色々な地区でそういうご意見もあります。それが大型バスというのは難しいでしょうが、例えばコミュニティバスなり、もっと手軽に使えるジャンボタクシーなり、そういうものができないかという検討を、どこの地区だけというわけにはいかないのですが、今のバスの政策というのは、見直しが必要だなというところまでなんです。

交通量の調査をしていかないと、どういう所に人が多く行かれるのかというのをまず調べないと、これからの長寿社会になって、足が少なくなっていることを考えて何かしていかないといけないというふうには思っています。まだ、その段階までなのですが、交通量調査とか要望をしっかりと伺って、何かしていきたいと思っています。

（参加者）

玉島は1183年の源平合戦で有名な平家唯一の勝ち合戦場であり、そして351年前に水谷勝隆（みずのやかつたか）が玉島港を築いていったという基礎があって、今の玉島がある。その間に、今、生誕250年を迎えた良寛さま、1868年には玉島事変という玉島を救ってくれた熊田恰（くまだあたか）、西爽亭ですね。こうして、色々重要なものが残っています。

そして、玉島といえば千歳楽ですね。有形としての宝です。有形の財産です。私は乙島ですから乙島中心に話してしまいますけど、玉島には隠れた千歳楽が一杯あります。乙島以上のものが一杯あります。そういうものを、魅力の中のひとつ。玉島といえば千歳楽だなどというようなことを伸ばしていきたいなと思っています。

乙島まつりというのは、柄が悪いなと思われているところがあるかもしれないですが、私自身、小さいころからやってきてそう思ってます。でも、それは外見的な目でみたときです。我々の中では、中心になるのは中学1年生から25歳までになります。25歳くらいの者が支部長になりますが、中学生に入って、まず高校生の指導を受けたり、直接、支部長の指導を受けたり、中学生は中学生の役割、高校生は高校生の役割があります。ここには、学校では絶対に教えてくれない勉強というのがあるのです。これは、我々が社会人になったときに絶対に役に立ちます。

こうしたところに、目を向けていってもらいたい。最近は危ないから出さないという親もいます。そういうところを違った観点で見てください。

それと、それは3つの柱のうちの子育てにつながるものと思っています。

第5回「市民ふれあいトーク」議事録（要約）

そして、お年寄りで70歳を超えている人も一緒に歩いています。そういった孫よりも小さいひ孫になるような者とも一緒にできるとことは、世代を超えたコミュニケーションが取れていることなのです。少なくとも自分たちの町内では、色んな人のつながりが分かる。と言うことは、昔あったように、その辺で遊ぶ子供が危ないときに注意してくれるし、そうして分かることが、防犯につながるのですね。これが2番目の安全安心に繋がっていくと私は思っています。

こういったところに魅力を感じていただきたいと思います。

それと女性たちにも、朝3時には飯を作ってもらっているわけです。そうやって裏方の仕事も一杯あるわけです。男女も年寄りだろうが若い物だろうが、全部ひっくるめて、組織としては、日本全国でモデル地区にしてもらいたいくらいですね。これを僕は創っていききたいし、僕もできることはやっていきたいというのがあるんです。

市長は、今年、乙島祭りに来て担ぐのもいいのですが、弁当を出したりすることも経験してもらえば、また違った目線で見えるのではないかなと思います。そういったことをやってもらうことで、玉島を好きになるんだと思う。東京や大阪に行っても、ここに千歳楽がくるからここに家を作りたい。それくらい誇りをもってほしいです。玉島という地域に。

倉敷市の重要無形民俗文化財ですが、これまで広報に載ったことがないような気がします。世界に発信するということ。外に発信しないと中のものは、その素晴らしさがわからない。中のものは自分たちに、こんな素晴らしいものがここにあるんだなど。乙島も過疎化になって、他所から入ってきている人が多いです。乙島祭りが分からないのです。でも、その人たちに好きになってもらえると無形の財産でなくなるのです。それと子育ても安全も魅力を伸ばすことにもなるので、広報してもらいたい。

そして、香川県の豊浜で千歳楽を飾っているところ（ちょうさ会館）があります。市民交流センターの端に置いてほしい。そして1年中そこに行ったら千歳楽が見える。こういったものをしてほしい。千歳楽は玉島に眠っているものを交渉してお借りしてその飾りというのがひとつの手でしょうし、時には、古い刺繍関係を展示して、説明できる人間を入れて説明させていただいてもいいと思います。そのためには、それをつくる場所も要りますし、お金もいるでしょうが、そこらを総合的に考えて是非よろしく願います。

（参加者）

千歳楽のハードウェアである山車と、そこでの経験とか繋がりとかのソフトの部分と両面で千歳楽文化というものを地元の人に知ってもらって、誇りを持ってもらって、協力いただければと思います。各地区に千歳楽が青年団主催の祭りがあって、それを皆で毎年繰り返して伝えていく中で、人が育つという部分もあるし、文化的な価値からみても千歳楽というものの刺繍とか、そういう部分を地元の人に知ってもらいたいと。

今、一番若い人が集まっている場所だと思います。若い人たちをひきつける魅力みたいな部分を理解してほしい。備中各地区の神社毎に、千歳楽を持っていて、この辺だけの特長的なもので、あと、大阪、四国にあるんですが、そういう文化的な歴史的な背景

第5回「市民ふれあいトーク」議事録（要約）

を知ってもらいたい。まちの宝ですし、自治組織として補助金もなく成り立っていて、我々も育てていただいたという経験、いい思いをさせていただき、大事なことなので、子供にも経験させてやりたい。若い人が損得ぬきでやってくれているのを知ってもらって理解してもらって有形無形の形で協力していただければと、こっちもこういう組織があるので、何かできることがあればと思っています。

（市長）

千歳楽には私も参加させていただきましたが、すごいですね。

交流センターに置けるかどうかは、建物の大きさなどもあり、わかりませんが、千歳楽のことが広報紙に出たことがないというのは、もっと知ってもらうようにした方がいいですね。広報紙に間に合うかどうかわかりませんが、今年だめでも来年もありますし

（参加者）

姫路の方には、喧嘩祭りというのがあって、あらゆる所に「重要無形文化財〇〇祭り」の垂れ幕をつけています。

乙島祭りは、市の重要民族無形文化財ですが、神社にはあるけれど、他にはない。例えば駅の所や、少なくとも乙島だけでも子供たちが通るところに張っておいてほしいですね。よくわからないけど、なんかすごいなという思いを聞くのではなく目でみて感じて、誇りに思えるのではないかと思います。

（市長）

玉島は戸島神社も羽黒神社も千歳楽があるんですね。連島も千歳楽ですね。児島も鴻八幡宮の祭りの中で、ここまでは千歳楽で、あとは、みこしなんですね。ある地区で別れているんですね。だから、国の切れ目だったんじゃないのかなと思ったのですが、倉敷市内でも、みこしの所と千歳楽の所があって、そういう文化がわかりますね。祭りだけの紹介ではなくて、そのような部分を。

（参加者）

学校と地域が離れているような気がする。昔は運動会をすれば地域の人が行って一緒にやっていたが、そこまでは無理としても、大阪の池田小学校の事件があってから、かなり壁が出来たような気がする。

あと一つは地域には技術とか知識とか知恵とかを持った方がたくさんおられる。それを小学校、中学校で利用しないことはないと思います。その辺を学校がリードしていかなければいけないと思うのですが、学校と地域との繋がり、学社融合ですが、学校と社会と融合して、地域の方の色々な知恵を小学校に行って、ベテランの力を借りて、授業とか生徒と地域との繋がり、色々な知恵をつけさそうという活動なんです。そういうことをどこか玉島地区でも1校でもつくってそれをモデル校としてどんどん広げていく。

岡山県でも一部始めたところがあります。伊島小学校とか岡輝中学校とかで、活用していますが、やはり玉島地区、倉敷地区でも、そういうのを取り入れて、色々な知恵を小学校に持ち込んで、また、小学校の児童とお年寄りとかとの繋がりを、まあ、こちらに来て色々な事件があったせいかもしれませんが小学生にあいさつしても、なかなか返

第5回「市民ふれあいトーク」議事録（要約）

事が返ってこないんですね。なんか寂しくなったなあという気がします。

その辺、何かモデル的なこと、学社融合を取り入れたらどうかと思います。

（市長）

学校と社会の融合という意味の学社融合でよろしいですね。

倉敷市内でも、一部地域の方が来てお話をさせていただくということも少しはありますが、全校でやっているわけではないんです。私も、これからご退職される世代の方たちが、増えていらっしゃるので、もっと地域で子供さんたちに色々教えていただければ、例えば、さっきの千歳楽の歴史とかを教えてもらったりができるといいなと思ってますので、一度には、なかなか難しいかもしれませんが、教育委員会の方にもよく相談をしていきたいと思っています。

（参加者）

溜川水系で、今一番問題なのは、ごみが流されてることですが、ごみは倉敷市、末端の港水門は県の管轄になっているので、そのゴミをどういう形で処理するか、今、私なんかはボランティアで年に2回～3回は、あそこのゴミを回収しているのですが。

それと昭和港水門の周辺が、今度、県があつた辺りの整備をするように聞いているのですが、青写真は出来ているのですか。

（市長）

まだです。水が逆流して溢れる、流れが悪くなっているということで、県の方に要望をしていたので、撤去をするところまでは決まったんです。それと、青写真というものはまだ、無いです。県がしてくれるとしたら、当然、市のポンプ場のところも撤去するわけですので、そうすれば、このくらいの土地ができる。まあ、その程度までしかまだ、進んでないです。

（参加者）

もし、青写真ができれば、何か大きな看板でも、こういう形になりますよというようなことは、県と話し合いの場とか設けて、そういうことはできないのですか

（市長）

少なくとも、市の持っているポンプ場のあたりとか、県がどういうふうに整備するかというのは、町内の方だけではなくて、どなたでも参加していただけるようなものを作りたいと思っています。

（参加者）

やはり、あそこは玉島の中心地であった関係で、その周辺の人だけでなく、ここはこうゆう形にかかりますよというものを、皆さんにわかるような形で、もっと県と市とが、あの周辺地域の話し合いを、われわれを含めて、もうちょっとできないものかなと思います。

この前、斉藤支所長にも5月になったらお話の場を持てるようにと申し込んでいますが。

（市長）

溜川水系は、特に、水が多く出たときに、逆流したり、溢れたりとかということで大変ご迷惑を掛けていていると思います。県の方も、しっかり飲み込まないといけないという

第5回「市民ふれあいトーク」議事録（要約）

ことで、今回、整備をしていただけるということになっていますので、しっかり話をし、かつ、その整備が、例えば、通り町商店街とかですね、そして神社の方に行きます町内のみなさんが、また商店街の振興にもつながっていくようにできればいいというふうに思っているのです。

最後にまとめみたいになってしまうのですが、今日、各地区のこととか、玉島の歴史のことや文化のことを教えていただいて、私は、これ全部繋がっているのではないかと思います。お茶の文化もそうですし、商店街のこともそうですし、その商店街に入るところの整備であったり、神社の祭りであったりですね、教えていただいた子供さんたちがもっと地域のことを勉強してもらいたいということなども全部繋がっているように思いますし、それから、なかなかバスもすぐ出来ることではないかもしれませんが、市民の皆さんたちが住みやすいまちを作っていけるように努力したいと思っています。農業のことも、食の危機管理という観点からしっかりやっていきたいと思っています。

なんだか、まとめになったのかどうかよくわかりませんが、今日教えていただいたことを、しっかり市政に反映をしていただくように頑張りたいと思っています。

とにかく、玉島の底力はすごいところだと思っていますので、これを発信していければ、絶対、ますますいいところになると思いますので、私も一所懸命頑張っていきたいと思っています。今日はどうもありがとうございました。

○参加者の方から次の資料提供がありました ⇒ [1](#) [2](#) [3](#)